

# 令和4年度 学校自己評価 2月

中津市立沖代小学校

評定判断基準	
A	…達成率90～100%
B	…達成率70～89%
C	…達成率60～69%
D	…達成率60%未満

- 1 学校の教育目標 ふるさと「沖代」を愛し、共に学び続ける児童の育成
- 2 育成を目指す資質・能力
  - ・自己の課題に気づき、解決のための活動を選び挑戦する力（問題解決力）
  - ・他者と対話的に関わりながら、自己や他者を尊重する力（人間関係づくり）
- 3 重点目標・達成指標、重点的取組等

生きて働く知識・技能の育成

思考力・判断力・表現力の育成

学びに向かう力、人間性の涵養

働き方改革の推進

重点目標	達成指標		重点的取組	取組指標	評価	成果と課題、及び次期（次年度）に向けての取組
わかる できるを 実感する	○国語・算数の単元テストの知識・技能領域で目標値以上の児童 80%以上 ○児童アンケートで「学校の勉強はわかる」と答える割合が85%以上 ○家庭学習（読書の日を含む）に毎日（毎回）進んで取り組んでいる児童 75%以上	学校	○OC層の学力保障（年間を通した学力づくり）	・見取りで見つかった個々の児童のつまずきの指導やテストのやり直しなど児童の実態に応じて適切な時間（授業時間を含む）を設定し改善に向け取り組む。 ・既習事項の定着等つけない力を意識した宿題、週末には活用問題を取り入れていく。	B	・「学校の勉強はわかる」児童 95% ・単元テスト1学期 目標値以上の児童80%以上 国語79% 算数80% ○単元テストの結果等から児童の実態把握をし、学年ごとに弱い点を洗い出せた。 ○授業の流れを提示することは定着しつつある。 ◇洗い出した弱点について授業内や宿題の出し方を工夫して取り組み検証す
		家庭	○主体的に自分の学習・読書を計画できる力の育成	・自主的に家庭学習や「読書の日」に取り組めるよう、励ましの声かけをする。 ・生活リズムやインターネット使用についてルールをつくり定期的に児童と話し合う。	A	・「家庭学習に毎日取り組んでいる」児童 88% ・「すすんで読書をしている」児童 90% ・保護者の声かけ 79% ○「読書の日」は、児童にも家庭にも定着しており、成果物を掲示するなどの取り組みも行っている。 ◇生活リズム、インターネット使用等、学校での指導は、学年ごとの取り組みとなってしまった。（保護者はアンケートは、84%が達成）
		地域	○学習サポーターやボランティア活動の充実	・どの学年にも読み聞かせや学習サポーターとして学期に1回以上参加する。（1学期は1、2年生のみ実施する）	A	○読み聞かせは、リモートで予定通り行うことができた。
自己や 他者を 尊重する 力の育成	○国語・算数の単元テストの知識・技能領域で目標値以上の児童 80%以上 ○児童アンケートで「学校の勉強はわかる」と答える割合が85%以上 ○家庭学習（読書の日を含む）に毎日（毎回）進んで取り組んでいる児童 75%以上	学校	○学年に応じた学び合いや活発に話し合うための手立てを工夫し、お互いの考えを認め合う授業への改善	・授業の流れのカードを必ず提示し、見取りの時間を確保する。 ・子ども同士が聞き合ったり、教え合ったりする学び合いをめあてや目的を明確に提示して1日1回以上行う。 ・具体的に行う日・内容を決定し、人間関係づくりプログラムに取り組む	B	・「他者の意見を取り入れ思考を深める」児童88% 教職員45% ○めあてや目的を明確にした取り組みの効果をj感する教職員が多いことから、今後も取り組みを進めていく。 ◇「他者の…」アンケート結果は、児童と教職員の意識の違いの差がある。質問項目の文言を見直し、より同じ視点で振り返られるようにする。
		家庭	○主体的に他者と関わろうとする態度を養う	・あいさつの意義について話し合い、すすんであいさつするよう働きかける。	A	・「あいさつができた」児童97% ・「すすんであいさつするよう働きかける」保護者89% ○一日の様々な場面で、あいさつの日常化ができるように今後も進めていく。
		地域	○挨拶プラスワンの取り組みを進める	・登下校中の子どもたちに「おはよう」「おかえり」の声掛けを実施する。	A	○見守り用のたすきを付けて、多くの方が登下校の見守りに参加してくれている。 ◇コロナ禍ではあるが、今後も引き続き協力をお願いしていきたい。
主体的・協働的に 取り組み、 新たな 社会を 創造する 力の涵養	○「みんなと何かすることは楽しい」と答える児童 80%以上 ○「学校・学年・学級の課題に気づき、学級で改善策を考え、解決できた。」と答える児童 80%以上	学校	○課題に気づき、身につけた力を発揮し、自主的自発的に課題を解決していく取り組みの推進	・授業等でつけた力を活用させることを意識した生活科・総合的な学習の時間の推進。 ・児童会の目標に合わせ、学年学級が目指す具体的な姿を示し、毎日振り返りをするとともに、取組の成果を「見える化」「聞こえる化」する。	B	・「学校が楽しい」児童92% 「みんなで何かやることは楽しい」96% ○「みんなで」行うことや学校生活に楽しさを感じる肯定的回答が持続するように、生活科や総合的な学習の時間での児童同士や地域との関わりを大事にしていく。 ・「学校・学年・学級の課題に気づき、学級で改善策を考え、解決できた」児童87% ◇人間関係づくりプログラムの推進により学年力・学級力の向上を目指す。
		家庭	○学校行事や生活科・総合的な学習の時間等を協働的に創っていくサポーターとなる	・学校行事や生活科・総合的な学習の時間に参加要請があった時など、できる限り参加し子どもたちの頑張りを褒める。	A	○コロナ感染対策を行い、ゲストティーチャーと連携を取りながら、可能な限り実施した。一方、計画まで行ったものの、感染拡大によりやむを得ず中止した活動もある。 ○2学期も対面実施とオンライン実施の双方を視野に入れて計画を立てている。
		地域	○地域のよさや課題を伝える	・単元や教材に応じたゲストティーチャーとして活動を行い、地域のよさを話したり、子どもたちの頑張りを褒めたりする。		
業務改善の 推進	○「沖代小学校は、学年・分掌部・各種委員会等が有効に機能している職場である」と答える教職員の割合が80%以上	学校	○チームで育てる学年・分掌運営、学年・分掌・運営委員会等、各種委員会・サポート会議の活用による業務の効率化・円滑化	・課題の改善や緊急の対応を学年・分掌部、委員会等で行うと共に、決定事項について周知する。 ・会議の目的の明確化と各種会議の円滑な実施。	B	・「沖代小学校は、学年・分掌部・各種委員会等が有効に機能している職場である」教職員80% ○会議、研究・研修が、計画的に準備・実施ができるように、実施予定日を明らかにしている。 ◇分掌内や学年内での業務の細分化については、まだ改善の余地がある。
		家庭	○働き方改革における学校業務の共通理解とサポート	・学校の働き方改革について理解し、ゲストティーチャーやサポーターとして学校支援を行う。	A	○コロナ感染対策を行いながら、積極的に協力していただく。
		地域				